

# 中世・草戸千軒探検 ③

## ～市場の賑わい(その2)～

草戸千軒Ⅰ展示室は、“よみがえる草戸千軒”をキャッチフレーズに、今からおよそ600年前の南北朝時代（広い意味での室町時代）を中心とする草戸千軒の町並みを実物大で復原したも

ので、博物館のメイン展示となっています。前回の第60号では焼き物売りと魚貝売りについて見てきましたが、引続いて穀物・野菜売りの様子を探検してみましょう。

焼き物売り・魚貝売りの店の構えは8本の柱で屋根を支える掘立柱建物でしたが、その奥にある穀物・野菜売りはもっと小ぶりの4本柱の掘立柱建物です。表通りの石敷きの道路に面した店の間口は1間ほどで、奥に向かって品物が並んでいます。

店先の籠や曲げ物の容器のなかには赤米・麦・大豆・小豆といった穀物と、蕪・山芋・牛蒡・里芋・

三つ葉・葱・梅など季節の野菜や果実が見られます。



店先に並ぶ穀物



穀物と野菜の市場

草戸千軒町遺跡の発掘調査では、木簡とよばれる墨で文字の書かれた木片がたくさん出土しましたが、そのなかに白米・大麦・あらむき（荒麦）・志らけむき（精麦）・まめ（豆）・あつき（小豆）・う里（瓜）・ちや（茶）などと記されているものがあります。また、実際に米・赤米・麦・大豆・胡麻・茄子・瓜・桃・梅・梨・蜜柑・柿・栗・葡萄・胡桃などの種



店先に並ぶ野菜

子も見つかっています。ちなみに、赤米という聞きなれない名ですが、これは古代から室町時代にかけて主に作られていた赤色系色素が入っているお米のことです。現在ではほとんど見られなくなりましたが、わずかながら作られており、神社のお祭りなどでたまに見かけることがあります。

前回は豊富な魚貝類を見てきましたが、それに負けないうらい野菜や果実にも色とりどりの品物が見られます。そうした市場の賑わいの様子から、草戸千軒に暮らす人々の食生活の豊かさが偲ばれます。

なお、草戸千軒町遺跡から出土した木簡や種子の一部は、動物や魚の骨などとともに、草戸千軒Ⅱ展示室に展示されていますので確かめてみてください。



野菜などが記された遺跡出土の木簡



遺跡出土の植物の種子